

NEWS PAPER

INTERVIEW

結果として
やれることは
出来た

39号車ドライバー
大湯 都史樹

Toshiki OYU #39

TODAY'S RACE Rd.5

AUTOPOLIS 5.17 SAT/18 SUN

RACE ARCHIVE

Rd.3・4
MOBILITY RESORT
MOTEGI

攻と速の
はげま

#3



www.inging.co.jp

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO • INGING SUPER FORMULA 2025 RACE REPORT





newspaper #3

SANKI VERTEX PARTNERS
CERUMO・INGING
RACE REPORT

2025

RACE ARCHIVE

Rd.3
MOBILITY RESORT MOTEGI

モビリティ
リゾートもてぎ 決勝
4月19日(土)
天候：晴れ
路面：ドライ



スタート直後、大湯に アクシデントが

予選を終えた後、二輪 JSB1000 の公式予選、ボルシェカレラカップのレースを経て迎えた午後2時50分からの決勝レース。午前から変わらず晴天に恵まれ、まだ4月にも関わらず気温は30度まで上昇。路面温度も41度と季節はずれの暑さのなかでのレースとなった。そんな決勝だが、スタート直後まさかの事態が起きた。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台はまずまずのスタートを切り、1コーナーには10番手スタートの阪口が最もイン側に、コース中ほどから11番手スタートの大湯がアプローチしていった。しかし、大湯はブレーキでわずかにロック。アウト側からターンインしていた#64 佐藤蓮のリヤにヒットしてしまう。接触で姿勢を乱した#64 佐藤はアウト側のグラベルにストップ。大湯も右フロントのウイングや足回りにダメージを受けてしまい、走行を続けたものの4コーナーから5コーナーまでの間のストレート脇に車両を止めることになってしまった。

阪口、苦しくも 入賞に奮闘

1コーナーでの#64 佐藤車、そして大湯車の回収作業のためレースはセーフティカーランとなる。この時点で、最もイン側にいた阪口はアクシデントの影響は受けず8番手につけた。4周目にセーフティカーが退去すると、阪口は序盤のペースも良く7番手を走る#16 野尻智紀とのギャップを詰めていった。ただ、レースが進んでいくと少しずつ阪口のペースが苦しくなりはじめた。そこでチームはピットウィンドウがオープンした翌周となる11周で阪口をピットに戻し、タイヤ交換を行った。コース復帰後、フレッシュなタイヤを履きふたたび阪口はペースを取り戻し、序盤すぐにピットインした陣営の3番手につけレース中盤を戦った。決勝の中盤以降にピット作業を行った陣営がコースに戻ると阪口は6番手につけた。ただ、後方からはピット作業を遅らせていた#1 坪井翔が急接近。ペースは大きく異なり、25周目に阪口は7番手にダウンすることになった。ただ28周目、4番手を走っていた#15 岩佐歩夢がトラブル

Results	38	予選	10位	決勝	6位
	阪口 晴南				
	39	予選	11位	決勝	リタイア
	大湯 都史樹				

RACE ARCHIVE

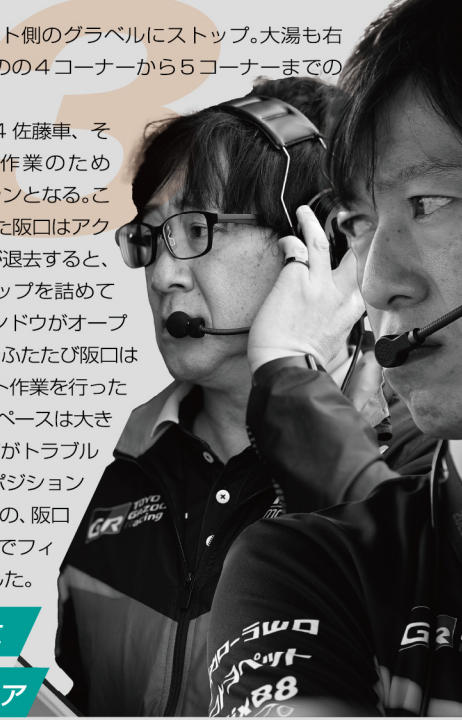
Rd.4
決勝
4月20日(日)
天候：曇り
路面：ドライ

両者、好スタートの オープニングラップ

第3戦同様、予選終了から約5時間のインターバルで迎えた第4戦の決勝レース。この日のモビリティリゾートもてぎは曇り空が続き、気温26度/路面温度34度というコンディションのもと、午後2時55分からレースの火ぶたが切って落とされた。スタートについても、阪口は「グリッドについてから、レッドシグナル消灯までの時間が上位陣だと長いですね。僕は毎戦予選位置が安定していないので、少し不安がありました」と口にしてはいたが、「無難に」スタートを決め4番手につける。そして、その背後に続いたのは、好スタートを決め、抜群の位置取りで1コーナーを抜けた大湯だ。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは4〜5番手でオープニングラップを戦った。

事前の想定で ダブルピットへ

しかしその後方では、1コーナーで3台が絡むアクシデントが発生し、これでセーフティカーが導入された。今回の第4戦は、ピットウィンドウがない。つまりこのセーフティカーラン中にピットに入ることが可能となり、タイムを稼ぐことができる。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、ここで事前の想定に従い阪口、大湯の順でダブルピットを行った。阪口の作業を待たなければならない大湯にとってはロスに繋がりが、実際にピットアウト後はわずかにポジションを落としたが、セーフティカーラン中であることからロスは最小限となった。一方の阪口はピットアウト時、#37 サッシャ・フェネストラズに前を塞がれる危険なシーンもあったが、相手にアンセーフリリースの裁定は出す。6周目のリスタート後、阪口は12番手、#14 大嶋和也をはさみ大湯は14番手でレース中盤を戦っていった。



攻と速のはずみまで



運命を分ける ピット戦略に

中盤、阪口は#14 大嶋から攻められる状況ではあったものの、抜かれるまでには至らず。ポジションを守っており、あとはコース上にステイしたチームがどんなペースで走るか、そしていつピットに入り、阪口と大湯に対しどの位置でピットアウトするかがポイントとなった。そんな中、レースが20周を過ぎるころになると、ステイアウト組がピットイン。少しずつ阪口、大湯の順位が上がっていった。22周目にはステイアウト組のトップだった#5 牧野任祐がピットインし、阪口#14 大嶋がこれをかわしていくが、フレッシュなタイヤを履く#5 牧野のペースは圧倒的に速く、25周目に阪口は先行を許してしまう。その後、各車がピットインを終えると、阪口は5番手につける。レース終盤、前を行く#37 フェネストラズ、さらに阪口、#14 大嶋、大湯という集団がバックで終盤を戦ったが、順位変動はなく、阪口は5位、大湯は7位でフィニッシュ。第4戦は2台が揃ってポイントを得ることになった。

Results	38	予選	4位	決勝	5位	大湯 都史樹	予選	8位	決勝	7位
	阪口 晴南									

The INTERVIEW #2

表彰台まで #38 Sena SAKAGUCHI あと一歩

スタートは無難に切ることができましたし、セーフティカーが入ったときにピットに入る判断も間違っていないでした。ただ、ピットアウト時に37号車に塞がれてしまったのは悔しいです。その後のペースはすごく良いわけではありませんでしたが、空気の流れが悪いなかで順位を守ることができました。結果的に2戦連続でポイントを獲得することができたのは大きなことですが、次の欲が出てきますからね。トップ3台のペースを目の当たりにするとガッカリするところもありました。

表彰台まであと一歩ですが、そのあと一歩が大きいですね。レベルが上がったのは良いことなので、この調子を維持しながらレベルを上げ、オートポリスで表彰台を目指していきたいです。

結果として やれることは 出来た -Toshiki #39 OYU

かったと思います。結果としては、今回やれることはできたのではないで
選、決勝を通じて安定してパフォーマンスを出すための原因を探り、準備

スタートの位置取りも良く順位を上げることができましたが、1周目のセーフティカーの影響で連続ピットになり、苦しい展開となりました。終始ペースを保つために試行錯誤はしたものの、結果的にペースが良かったかと言われれば、それほどではありませんでした。まだ課題があると感じたレースになりましたし、1周目のセーフティカーランでピットに入らない戦略を採ったとしても、ペースがなければ難しいでしょうか。次戦のオートポリスは実はあまり相性が良くないのですが、やっていきたいと思っています。



To be Continued...

TODAY'S RACE Rd.5
AUTOPOLIS 5.17SAT/18SUN